

## 建築学教育における情報教育のガイドライン

### 【到達目標 1】

建築学の問題発見・解決に必要な情報の収集・整理・表現ができる。

### 【到達度】

建築に関する基礎知識として、必要な情報をインターネットなどにより収集・整理できる。  
コンピュータリテラシーを身につけ情報倫理に配慮してICTを利用できる。

### 【教育内容・教育方法】

は、演習課題を与えて、適切な情報を調査・収集・整理する手法について理解させる。  
は、基本的なソフトウェアを活用し、情報倫理に配慮した文書作成、表計算、プレゼンテーションなどを体験させる。

### 【到達度確認の測定手段】

と は、提出された成果物、課題レポート、発表の内容などにより確認する。

### 【到達目標 2】

情報処理技術を活用して、建築の設計製図や構造・施工材料・環境・設備などのシステム解析等を行うことができる。

### 【到達度】

建築のCADソフトを活用した基礎的な製図技法を身につけ、設計の妥当性が判断できる。  
建築構造及び環境・設備システムの解析ツールが利用でき、その結果について批判的に見ることがができる。

### 【教育内容・教育方法】

は、設計課題を与えて、建築のCADソフトを活用した建築作品の制作をさせ、プレゼンテーションする。  
は、解析ツールを用いた演習を行い、その結果を理論値や実験値と比較検討させる。

### 【到達度確認の測定手段】

は、建築作品等の成果物、講評などにより確認する。  
は、課題レポートなどにより確認する。

### 【到達目標 3】

建築の学術・技術・芸術を包括的に理解するためにICTを活用できる。

### 【到達度】

コミュニケーションツールを活用し、コラボレーションにより建築の創造性や多様性を考えることができる。  
建築の安全性や機能性を理解して、モデル化及びシミュレーション結果の妥当性を評価できる。

### 【教育内容・教育方法】

は、現実の地域・社会を対象とした演習課題を与え、ディスカッション、グループワークを通じて建築作品を制作し、プレゼンテーションさせる。  
は、問題解決に向けた適切なモデル化、シミュレーションの手法を身につけ、その結果を既往の知見を踏まえて、総合的に判断させる。

### 【到達度確認の測定手段】

と は、課題レポート、調査報告、プレゼンテーションなどにより確認する。